

令和4年度前期始業式 校長あいさつ

令和4年4月8日

高志高校校長 山内 悟

皆さん、おはようございます。

昨日、入学式を行い、249名の新入生を迎えました。新入生の皆さんは、高志高校という新しい学校に入学して、新たな決意と希望でいっぱいのことでしょう。

新2年生、新3年生の皆さんは、新しい学年、クラスになり、新鮮な気持ちで新年度を迎えたことと思います。

昨日、私は、夜7時過ぎに学校を出て、足羽神社のしだれ桜を見に行きました。雨が降っていて少し肌寒く感じましたが、満開の桜を見て春の訪れを実感しました。同時に、樹齢350年以上と言われるしだれ桜が咲き誇る様子から、生命のエネルギーをもらったような気持ちになり、ここ3週間ほど気持ちが張り詰めていたのが和らいだような感じにもなりました。

お互い、今日の新鮮な気持ちを今後も持ち続けて、令和4年度の様々な活動に力を注いでいきましょう。

さて、先月、3月24日の終業式で、前任の吉田校長先生が「越境」について話をされました。昨年度、私は高志中学校の校長をしていましたが、偶然にも、私も3月の終業式で「越境」をテーマに話をしました。

今日は、高校生の皆さんに、改めて、「越境」をテーマにお話ししたいと思います。

「越境」とは「境界を越えて行くこと」という意味です。例えば、県境を越えて県外へ行ったり国境を越えて外国へ行ったりすると、いつもとは違う景色を目にしたり、普段口にしないものを味わったり、会ったことのない人に出会ったりします。このように、物理的に越境することは、私たちに刺激的な経験の機会を与えてくれます。コロナ禍のせいで、自由に出かけることにはまだ制約がありますが、皆さんには、ぜひ、県外や国外に目を向けて、自分の経験の幅を広げることを考えてもらいたいと思っています。

次に、もう一つの「越境」の例として、「心理的越境」について考えてみたいと思います。

皆さんは、「コンフォートゾーン」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。「コンフォートゾーン」とは、「居心地の良い場所」という意味です。別の言い方をすると、気の合う人と気楽に過ごせる場所、気が向いたことだけやっていることが許される場所、人から尊敬されたりちやほやされたりして常にいい気分でいられる場所、のように解釈することができます。このようなストレスがほとんどない場所に居続けると、残念ながら、人は成長することができません。

では、成長するためには、どうするのがよいかというと、「コンフォートゾーン」から「越境」するのです。

「コンフォートゾーン」の外側には、「ラーニングゾーン」、さらにその外側には「パニックゾーン」があるという考え方があります。

「パニックゾーン」は、これまでのやり方が全く通用しない場所で、どうしてよいか分からなかったり何をやっても効き目がなかったりするために、文字通りパニックを起こしてしまうようなところです。ここにいる人も、残念ながら、有益な学びを得ることはできません。それどころか、強いストレスにさらされて思考停止状態に陥ったり、胃が痛くなるなどの体調不良になったり、無力感にさいなまれるなど苦しい精神状態になったりします。

勘の鋭い皆さんはもう分かったと思いますが、中間にある「ラーニングゾーン」に身を置くのが成長へのポイントということになります。

「ラーニングゾーン」は、未知の領域であることには違いないので、多少の不安やストレスは感じます。でも、その不安レベルは自分でコントロールできる程度で、そこにある課題も少し努力すれば何とか解決できるものです。ストレスも、程よい緊張感を保てる程度のもので、心身に深刻な不調を及ぼすようなものではありません。むしろ、やる気を起こさせてくれるような種類のストレス（「ハッピーストレス」とも呼ばれる）です。

皆さんには、今いる「コンフォートゾーン」から一歩外へ出て、「ラーニングゾーン」で様々なチャレンジをしてもらいたいと思います。「現状+1」の努力をし続けることが自分の成長やコンフォートゾーンを大きくすることにつながります。

私は、生徒の皆さん一人ひとりにそれぞれの「越境」を経験してもらいたいと思っています。自分の「コンフォートゾーン」と「ラーニングゾーン」に気づくことのできる目を持つこと、そしてその境界を越えてチャレンジしてみる勇気を持つこと、を皆さんに期待します。

以上、今日は、「越境」についてお話ししました。この「越境」を、成長のためのキーワードとして心に留めて、今日からの学校生活を過ごしてください。